

活用効果調査表 作成要領

活用効果調査表作成時における留意事項

○比較する従来技術

- ・ 比較対象とする従来技術は、原則としてNETIS申請情報にある従来技術。
- ・ 活用効果評価（事後評価）により、従来技術が変更されている場合があるため、活用効果調査時には確認が必要。

「活用計画書・実施報告書」入力時の留意点

■基本情報

画面を閉じる

一時保存

印刷・プレビュー

※120分間でタイムアウトします。作成の都度、一時保存をお願いします。

※詳細画面上部の基本項目を変更したい場合は、工事登録画面から登録内容に関するお問い合わせはこちら

・システム操作方法に関するお問い合わせはこちら

技術活用提案日

登録番号(技術活用提案日時点)

-

-

新技術名称

●●工法

比較する従来技術

▲▲工法

組織機関名

■●地方整備局

部署・事務所名

〇〇事務所

工事名

令和△年度 □□□工事

工事/業務の種類別

活用等の型

※新技術活用システム実施要領で定められたNETIS技術を活用するシステムになります。下記「新技術活用システム実施要領」の「3.3.3 活用実施」を参照して下さい。

[新技術活用システム実施要領](#)

登録番号(最新)

●●-●●●●●●

-

A

新技術活用計画書

実施報告書

活用効果調査表（施工者用）

『活用等の型』

【活用計画書】

・ ドロップダウンリストから該当する「活用等の型」を選択。

※通常は①～④になると考えられます。

①施工者選定型（契約後提案）

総合評価落札方式における技術提案に基づき施工者が NETIS登録技術の活用を行う型

②施工者選定型（総合評価技術提案）

請負契約締結後における技術提案申請に基づき施工者がNETIS登録技術の活用を行う型

③発注者指定型

工事等の発注に当たって発注者が新技術を指定することにより活用を行う型
（試行申請型、フィールド提供型に該当する場合を除く）

④発注者指定型（選択肢提示型）

工事等の発注に当たって発注者が テーマ及び当該テーマに対して効果が期待できる複数の新技術を提示し、請負契約締結後に施工者が 新技術を選択することにより活用を行う型

⑤試行申請型（発注者指定）

事後評価未実施技術を対象に、**NETIS申請者の申請に基づき、事前審査の結果等を踏まえて活用**を行う型

⑥試行申請型（契約後提案）

試行調査現場の照会について対象となっている技術を対象に、請負契約締結後における施工者の技術提案申請に基づき、活用を行う型

「活用計画書」入力時の留意点

■活用計画書

「新技術活用計画書」

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表（施工者用）

☐ 記入完了
※下記項目の記入が完了したら、口記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを

作成日 ※「新技術活用計画書」の作成日を入力してください

受注者名 ●●建設株式会社

契約額(円)

工事期間 ~

新技術施工期間 ~

施工場所 例) ○○県○○市○○地先（住所でも可）

活用理由 ※当該技術を活用した理由を当てはまる項目について記入してください。
(必ず一つはチェックが必要です。)

『作成日』 【活用計画書】 【実施報告書】

- ・「活用計画書」又は「実施報告書」を作成した年月日を入力。
- 注) 「活用計画書」の作成日は、新技術施工期間(自)より以前。
- 注) 「実施報告書」の作成日は、新技術施工期間(至)より以降。

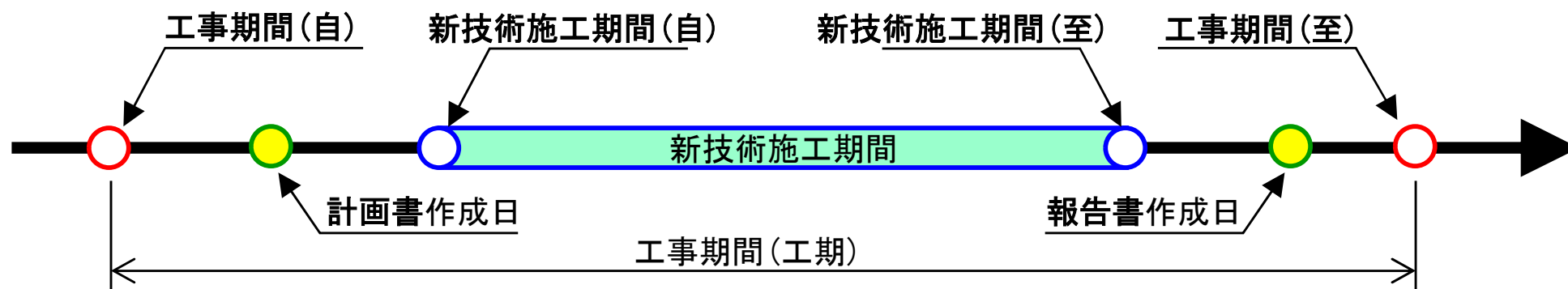
『工事期間』 ⑫『新技術施工期間』 【活用計画書】 【実施報告書】

- ・「工事期間」「新技術施工期間」それぞれを入力。
- 注) 「新技術施工期間(自)」は「工事期間(自)」より以降
- 注) 「新技術施工期間(至)」は「工事期間(至)」より以前

(よくある間違い) 【活用計画書】

- ・「実施報告書」の作成日が「活用計画書」の日付のまま。
- ・該当工事で工期変更しているが「活用計画書」の情報のまま。

「作成日」「工事期間」「新技術施工期間」の相関イメージ



「活用計画書」入力時の留意点

■活用計画書②

新技術活用計画書 実施報告書 活用効果調査表（施工者用）

☐ 記入完了
※下記項目の記入が完了したら、☐記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

作成日 ※「新技術活用計画書」の作成日を入力してください

受注者名 ●●建設株式会社

契約額(円)

工事期間 ~

新技術施工期間 ~

施工場所 (例) ○○県○○市○○地先（住所でも可）

活用理由 ※当該技術を活用した理由を当てはまる項目について記入してください。
(必ず一つはチェックが必要です。)
※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに記録されません。
※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

☐ 経済性 ~により、コストを削減すること

☐ 工程 ~により、工程を大幅に短縮することができるため。

『契約額（円）』

【活用計画書】 【実施報告書】

・ 契約金額を入力。契約変更がある場合は、変更後の金額を入力。

⑬『施工場所』

【活用計画書】 【実施報告書】

・ 工事現場（新技術の活用場所）の住所などを入力。

注）新技術を活用した地理的条件（現場条件、資材の運搬距離等の諸条件など）について確認する際に必要な情報のため、正確な入力を願います。

【記載例】

●●県▲▲市■●町▼▼

■「活用計画書」について

- ・ 「施工概要」～「作業環境」、「活用効果調査表（発注者用）」「活用効果調査表（施工者用）」の入力は不要です。👉Point

■「実施報告書」について

- ・ 「施工概要」～「作業環境」を含め、「活用効果調査表（発注者用）」「活用効果調査表（施工者用）」の全ての項目に入力が必要になります。👉Point

「活用計画書」入力時の留意点

■活用計画書③

※活用計画書では「施工概要」～「作業環境」までの入力不要。

活用理由 ※当該技術を活用した理由を当てはまる項目について記入してください。

(必ず一つはチェックが必要です。)

※チェックボックスにチェックがない場合、入力されたコメントはNETISに登録されません。

※チェックボックスにチェックがある場合、コメント欄は入力必須です。

☐ 経済性

～により、コストを削減することができるため。

☐ 工程

～により、工程を大幅に短縮することができるため。

☐ 品質・出来形

～により、施工精度および品質の確保が図れるため。

☐ 安全性

～により、危険作業の低減が図られるため。

『活用理由』

【活用計画書】 【実施報告書】

・活用する新技術を選んだ理由について、6項目(経済性、工程、品質・出来形、安全性、施工性、環境)から対象となる「チェックボックス」のチェック、及びその活用理由についての「コメント」を入力。

注) 「コメント」は「チェックボックス」にチェックした項目に対して入力。

「チェックボックス」にチェックした項目は入力必須。

(よくある間違い)

・NETIS掲載情報の『その他、技術のアピールポイント等』に記載している内容を、「その他」の評価項目に入力。
※NETIS掲載情報の当該内容は、登録申請者による新技術のアピールであり、評価項目ではない。

(注意点)

※「活用理由」で選択していない項目であっても従来技術と比較できる項目(NETIS掲載情報の「活用の効果」で評価している項目)は「当該技術に関連しない評価項目」とはせず、評価が必要。👉Point

※従来技術と施工方法や材料が異なるものについては、経済性、安全性及び施工性等は「当該技術に関連しない項目である」には該当しないため、評価が必要。👉Point

「実施報告書」入力時の留意点

■実施報告書①

※活用計画書では「施工概要」～「作業環境」までの入力は不要。

『施工概要 — 内容』

【実施報告書のみ】

- ・ 施工場所(路線名や河川名など)、施工目的、施工内容(工事全体の工種、数量)、当該技術(活用した新技術)の活用理由などを記入。

注) 施工内容の記載について規定はないが、適正な事後評価の実施には工事全体が把握できる情報が必要。

【記載例①】

国道●●号バイパス

現道における慢性的な交通渋滞の解消を目的とする。

掘削工●●m³、盛土工●●m³、地盤改良●●m³、路盤工●●m²、舗装工●●m²、重力式擁壁●●m

軟弱地盤処理工として●●●●工法を活用する。

【記載例②】

●●川における護岸改修。

掘削工●●m³、盛土工●●m³、大型ブロック●●m²、根固めブロック●●m

施工性の良い●●●●を活用する。

「実施報告書」入力時の留意点

■実施報告書②

対象数量 全角127文字以内。 ※新技術を活用する数量を記入して下さい。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

『施工概要－対象数量』

【実施報告書のみ】

・新技術を活用した(対象工種の)施工数量を記入。

注) NETIS掲載情報の数量(単位)と合せた内容を記載。

注) 従来技術との適正な比較のため、NETIS掲載情報の『従来技術との比較』欄の『活用の効果の根拠』、及び『適用可能な範囲』に記載している条件に合致しているかの確認が必要。

注) 出来る限り「地盤改良●●m³」「鋼管基礎●●本」などの数量と併せて、「改良深●m」や「杭径●m、打込深●●m」のような施工規模が判断できる情報も記入。

【記載例①】

地盤改良●●m³ (改良深●m、幅●m)

【記載例②】

鋼管基礎●●本 (杭径●m、打込深●●m)

【記載例③】

大型ブロック●●m² (施工延長●●m、勾配 1 : ●、法長●●m)

【記載例④】

盛土●●●m³ (幅●m × 延長●m × 高さ●m)

「実施報告書」入力時の留意点

■実施報告書③

新技術使用箇所 全角127文字以内。

例) ふとんかごの場合、「施工済盛土法面」、「〇〇川右岸崩壊箇所」等

『施工概要 — 新技術使用箇所』

【実施報告書のみ】

- ・ 新技術を活用した箇所について具体的に記入。

【記載例①】

●号重力式擁壁(基礎部)

【記載例②】

P1橋脚(基礎)

施工(活用)概要資料 ※新技術の活用内容が把握できる図面や写真等を添付。(活用後の情報で構いません。)

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

参照... ファイルが選択されていません。

※ファイルは30MBまでのものとしてください。

『施工(活用)概要資料』

【実施報告書のみ】

- ・ 施工概要、活用概要などを補足する資料を登録。

注) 無くても問題はありません。

「実施報告書」入力時の留意点

■実施報告書④

現場施工条件 各全角1000文字以内。

●現場条件

例) 回収部分のN値は、2～13程度。川裏側に一部碎石があり、先行除去作業が必要であった。

●周辺状況（病院、学校、鉄塔の有無等）

例) 改良部より川裏側（L=6.0m付近）に電力会社の鉄塔あり

●自然環境（騒音、振動、水質等）

例) 今回施工した改良部では、地下水、湧水への影響はない。

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

誤字チェック 凡例：チェック対象文字, 修正候補

補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

『施工概要－現場条件、周辺状況、自然環境』

【実施報告書のみ】

・新技術を活用した工事における「現場条件」「周辺状況」「自然環境」について記入。

注) 特筆すべき事項が無ければ『特になし』と記入。

【記載例】

「現場条件」…交通規制(片側交互通行)が必要。

設計とは異なる地盤条件が有り。

「周辺状況」…施工区域に学校や民家等の公共施設が近接していることから、防音対策が必要。

「自然環境」…夏季の施工のため、暑中対策が必要。

希少生物が存在するため、濁水処理が必要。

「実施報告書」入力時の留意点

■実施報告書⑤

障害 施工上で重大な障害や問題が生じましたか。

☐無 ☐有

障害の内容 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例： チェック対象文字 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

作業環境 ☐陸上作業 ☐水上作業 ☐地下作業 ☐水中作業 ☐高所作業

『障害』

【実施報告書のみ】

- ・ 施工上において重大な障害・問題がなければ『無』、あれば『有』を選択し、その障害・問題の内容を「障害の内容」欄に記入。

『作業環境』

【実施報告書のみ】

- ・ 新技術を活用した作業環境に該当するものをチェック。

「活用効果調査表(発注者、施工者)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)①

活用効果調査表(発注者、施工者)」

新技術活用計画書 実施報告書 **活用効果調査表(施工者用)**

☐ 記入完了
※下記項目の記入が完了したら、☐記入完了にチェックを入れて、「登録」ボタンを押してください。

記入要領

- 全ての調査項目について調査を行って下さい。
ただし、記入者が評価に関係ないと判断した調査項目があれば「当該技術に関連しない項目である」にチェックして下さい。
その場合は、当該調査項目の評価は必要ありません。また、コメント欄にその理由を必ず記入して下さい。
- 調査項目毎に評価点をチェックして下さい(チェックの目安は下表の通り)。

大幅に劣る	劣る	同等	優れる	大幅に優れる
1	2	3	4	5

【ポイント】
活用した新技術が、従来技術に比べて「優れる」か「同等」か「劣る」かを判断してから、どの程度優れているのか、どの程度劣っているのかを上表を目安に判断していただくことで、チェックしやすくなります。

- 調査項目の追加が必要な場合はその他(自由設定)欄に記入して下さい。
- 調査項目毎に「優れていた点」「劣っていた点」をチェックして下さい(複数チェックすることも可能です)。
チェックを入れた場合はその補足説明をコメント欄に記入して下さい。また、チェックを入れなかった場合についても、その理由をコメント欄に記入して下さい。
- コメント欄には、**効果調査(5段階評価チェック)の理由を必ず記入して下さい。**
また、当該技術を活用及び活用検討する上での**留意事項**等を記入して下さい。
記入内容は、効果調査の理由や評価の視点でチェックした内容と必ず整合を図って下さい。
必要に応じて定量的なコメントをお願いします。

会社名(所属) 大日本ダイヤコンサルタント株式会社

記入者氏名 大日本 太郎

連絡先(TEL)

『連絡先(TEL)』

- ・「連絡先(TEL)」を記入。

(注意点)

- 記載内容の不備や不明瞭な箇所がある活用効果調査表は、後日、記入者に対して事後評価を実施する評価会議から問合せがあります。評価内容に齟齬等が発生しないように注意して記入してください。👉Point

「活用効果調査表(発注者、施工者)」入力時の留意点

「活用効果調査表(発注者、施工者)」の入力における注意事項①

評価内容の注意点（各評価項目共通）について

- ・「評価点」、「コメント」及び「調査の視点」の内容に齟齬が生じないように注意すること。👉Point

（よくある間違い）

- ・「コメント」において、『優れていた点』と『劣っていた点』がそれぞれ記載しているが、「調査の視点」では片側のみをチェック。
- ・「調査の視点」において、関係のない項目をチェック。
- ・『●●を目的して活用したため』として、その外の評価項目を『関連しない項目』としている。

↑ 従来技術と比較できる項目（NETIS掲載情報の「活用の効果」で評価している項目）は「関連しない項目」とはせずに、必ず評価してください。

- ・『発注者指定型』等で当初設計から費用等が見込まれているとして、「経済性」等の評価項目において『関連しない項目』をチェック。

↑ 「新技術の活用の効果」の評価のため、NETIS掲載情報の「比較する従来技術」と必ず比較してください。

『関連しない項目』について

- ・『関連しない項目』にチェックする場合は、その明確な理由を「コメント」に必ず記入。👉Point

『コメント』について

- ・出来る限り数値等を用いて定量的に評価した比較内容を記入。
- ・『なぜ』優れていた（同等、劣っていた）のかの事由を記入。

注）「優れていた点」と「劣っていた点」が混在する評価となる場合は、総合的な評価に至るまでの内容について、それぞれの評価を用いて記入。👉Point

注）原則として「コメント」は入力必須。👉Point

『優れていた点、劣っていた点（調査の視点）』について

- ・「優れていた点」「劣っていた点」の該当する項目をチェック。

注）該当する項目の全てをチェックしてください。

「活用効果調査表(発注者、施工者)」入力時の留意点

「活用効果調査表(発注者、施工者)」の入力における注意事項②

経済性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

●当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☐ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため
- ☐ 作業人員が増加したため
- ☐ 仮設費が増加したため
- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 施工量が想定数量より少なかったため
- ☐ 維持管理費の増加が見込まれるため

◆評価点

- ・その評価点数は妥当ですか？
過大評価(過小評価)していませんか？

◆コメント

- ・必ず入力してください！！

- ※「評価点」「コメント」「調査の視点」の評価
内容の整合はとれていますか？
- ※それぞれの評価内容に齟齬はありませんか？

◆調査の視点

- ・該当する項目の全てをチェック
していますか？
- ・評価事項が「調査の視点」にな
い場合は近似となる項目をチェッ
クしても良いです。

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【経済性】

経済性

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
☐ 1	☐ 2	☐ 3
☐ 4	☐ 5	

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため
- ☐ 作業人員が減少したため
- ☐ 仮設費が減少したため
- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 施工量が想定数量より多かったため
- ☐ 維持管理費の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため

『経済性』 (注意点)

・P.12『活用効果調査表の入力における注意事項』を参考に比較評価してください。

【記載例①】

評価点：4点

コメント：材料単価は高価だが、施工性が向上することで作業人員(労務費)の削減や作業日数の短縮(諸経費の削減)が図れるため、▲▲円/●●m²が削減できた。

調査の視点：「作業人員が減少したため」「施工日数が短縮したため」「機械経費・製品単価・補助材料費が増加したため」にチェック

【記載例②】

評価点：2点

コメント：材料単価は安価だが、施工性の低下により作業人員が増加したため、施工費が▲▲円/●●m²の増加となった。

調査の視点：「機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため」「作業人員が増加したため」「施工日数が延長したため」にチェック

【記載例③】

評価点：3点

コメント：使用材料が安価になるため、施工費を▲▲円/●●m²削減することが出来たが、優れているとまでの評価には至らない。

調査の視点：「機械経費・製品単価・補助材料費が減少したため」にチェック

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【工程】

工程

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 施工日数が短縮したため
- ☐ 工程計画が組みやすかったため
- ☐ 予定工程どおりに進捗したため
- ☐ 施工性が向上したため
- ☐ 仮設が減少したため
- ☐ 維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点

- ☐ 施工日数が延長したため
- ☐ 工程計画が組みづらかったため
- ☐ 予定工程どおりに進捗しなかったため

『工程』 (注意点)

- ・P.12『活用効果調査表の入力における注意事項』を参考に比較評価してください。

【記載例①】

評価点：5点

コメント：●●が不要となることから、仮設の減少及び作業日数の大幅な短縮(▲▲日短縮)が図れた。

調査の視点：「施工日数が短縮したため」「仮設が減少したため」にチェック

【記載例②】

評価点：4点

コメント：●●が不要となることから、仮設の減少及び作業日数の短縮(△△日短縮)が図れた。

調査の視点：「施工日数が短縮したため」「仮設が減少したため」にチェック

【記載例③】

評価点：3点

コメント：従来技術と同じ施工方法のため、工程も同じ。

調査の視点：チェックなし

【記載例④】

評価点：2点

コメント：●●の搬入・搬出に係る仮設が増加したため、当初予定していた日程より延長(△△日)した。

調査の視点：「予定工程どおりに進捗しなかったため」「仮設が増加したため」にチェック

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【品質・出来形】

品質・出来形

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 品質が向上したため
- ☐ 出来形・精度が向上したため
- ☐ 耐久性が向上する構造になったため
- ☐ 品質・出来形の管理項目が減少したため
- ☐ 品質・出来形の管理頻度が減少したため

劣っていた点

- ☐ 品質が低下したため
- ☐ 出来形・精度が低下したため

『品質・出来形』 (注意点)

・P.12『活用効果調査表の入力における注意事項』を参考に比較評価してください。

【記載例①】

評価点：3点

コメント：完成物は従来技術を使用した場合と同等の品質(能力)であるため同等の評価となる。

調査の視点：チェックなし

【記載例②】

評価点：4点

コメント：■の施工精度が従来では±●mm以内であったものが、±▲mm以内で施工できた。

調査の視点：「出来形・精度が向上したため」にチェック

【記載例③】

評価点：「当該技術に関連しない項目である」にチェック

コメント：本技術は仮設工の●●であり、目的構造物や仮設構造物の品質・出来形には関連しないため。

調査の視点：チェックなし

【記載例④】

評価点：3点

コメント：NETIS申請情報では「耐候性●年」とあるが、現時点では確認できないため同等と評価する。
経年変化等について追跡調査が必要。

調査の視点：「耐久性が向上する構造になったため」にチェック

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【安全性】

安全性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 墜落・転落事故の危険性が減少したため
- ☐ 重機災害の危険性が減少したため
- ☐ 飛来・落下物災害の危険性が減少したため
- ☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため
- ☐ 危険物の取扱が減少したため

劣っていた点

- ☐ 墜落・転落事故の危険性が増加したため
- ☐ 重機災害の危険性が増加したため
- ☐ 飛来・落下物災害の危険性が増加したため
- ☐ 作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が悪化したため
- ☐ 危険物の取扱が増加したため

『安全性』 (注意点)

・P.12『活用効果調査表の入力における注意事項』を参考に比較評価してください。

【記載例①】

評価点：3点

コメント：●●の機械化により●●の作業が不要となるが、建設機械等への接触の危険性が増加するため、同等と評価する。

調査の視点：「墜落・転落事故の危険性が減少したため」「重機災害の危険性が増加したため」にチェック

【記載例②】

評価点：4点

コメント：建設機械の大型化に伴い重機災害の危険性が増加するが、危険作業の従事時間が大幅に減少することから、安全性に優れる。

調査の視点：「重機災害の危険性が増加したため」「作業環境(暗がり・騒音・狭所作業等)が向上したため」にチェック

【記載例③】

評価点：「当該技術に関連しない項目である」にチェック

コメント：本技術は●●に使用する解析ソフトであり、ソフトの活用が安全性の評価に寄与しないため。

調査の視点：チェックなし

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【施工性】

施工性

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
○1	○2	○3	○4	○5

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 現場での施工が減少したため
- ☐ 仮設工が減少したため
- ☐ 作業員の作業が容易になったため
- ☐ 熟練度に依存した作業が減少したため
- ☐ 施工の機械化が向上したため
- ☐ 施工時の制約条件が減少したため

劣っていた点

- ☐ 現場での施工が増加したため
- ☐ 仮設工が増加したため
- ☐ 作業員の手間が増えたため
- ☐ 熟練度に依存した作業が増加したため
- ☐ 施工の機械化が低下したため
- ☐ 施工時の制約条件が増加したため

『施工性』 (注意点)

・P.12『活用効果調査表の入力における注意事項』を参考に比較評価してください。

【記載例①】

評価点：5点

コメント：●●が不要となることから、現場施工及び仮設工の大幅な削減が図れる。

調査の視点：「現場での施工が減少したため」「仮設工が減少したため」にチェック

【記載例②】

評価点：4点

コメント：●●により作業の単純化が図れるため、作業が熟練度に依存せず進捗した。

調査の視点：「熟練度に依存した作業が減少したため」にチェック

【記載例③】

評価点：3点

コメント：本技術は使用材料を変更したものであるが、従来技術と同じ施工方法で施工できることから同等と評価する。

調査の視点：チェックなし

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【環境】

環境

効果調査

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4	☐ 5

☒ 当該技術に関連しない項目である

コメント 全角1000文字以内。

優れていた点

- ☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が減少したため
- ☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため
- ☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
- ☐ 産業廃棄物の発生量が減少したため(リサイクル性が向上したため)
- ☐ 省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点

- ☐ 周辺環境への影響(大気・土壌・水質汚染)が悪化したため
- ☐ 騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため
- ☐ 周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
- ☐ 産業廃棄物の発生量が増加したため(リサイクル性が低下したため)
- ☐ 省エネルギー・省資源が低下したため

『環境』 (注意点)

- ・P.12『活用効果調査表の入力における注意事項』を参考に比較評価してください。

【記載例①】

評価点：3点

コメント：使用機材の燃費向上により、省エネルギー化は図れるものの、その効果は軽微であるため、同等と評価する。

調査の視点：「省エネルギー・省資源化が向上したため」にチェック

【記載例②】

評価点：4点

コメント：●●の打撃音が従来と比較し、●●dBの低下が図れた。

調査の視点：「騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため」にチェック

【記載例③】

評価点：「当該技術に関連しない項目である」にチェック

コメント：本技術は●●に使用する解析ソフトであり、ソフトの活用が環境の評価に寄与しないため。

調査の視点：チェックなし

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【その他】

上記項目の他に評価事項がある場合は本項目にて評価を行って下さい。優れていた点、劣っていた点はコメント欄へ具体的に記載して下さい。

その他

タイトル 全角20文字以内。

効果調査

従来技術より劣る	同等	従来技術より優れる
☐ 1	☐ 2	☐ 3
☐ 4	☐ 5	

☐ 当該技術に関連しない項目である。

コメント 全角1000文字以内。

『その他』

(注意点)

- ・前項『活用効果調査表の入力における注意事項』を参考に比較評価すること。
- ・発注者と施工者で同一項目を評価。
- ・「その他」の項目については、基本的にはNETIS掲載情報の「活用の効果」の「周辺環境への影響」直下の枠に記載されている事項を記入。

注) NETIS掲載情報における「その他」の項目には、稀に6項目に含まれるはずの事項が記載されている場合があります。そのような場合は、6項目で評価し、その他には記入しないでください。👉Point

注) NETIS登録技術に「その他」の評価項目が設定されていない場合は、空欄になっています。👉Point

(よくある間違い)

- ・NETIS掲載情報の「その他、技術のアピールポイント等」を『その他』において評価をしている。
- ↑「その他、技術のアピールポイント等」は新技術の登録申請者が技術のアピールのために記載している内容であり、活用効果調査すべき事項ではないため、『その他』に記入しないでください。

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【総合的所見等①】

総合的所見

NETIS掲載情報の『期待される効果』に対して、活用した結果はどうでしたか

優れていた所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

劣っていた所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

留意する所 全角1000文字以内

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

『総合的所見』

- ・新技術を活用した結果について「優れていた所」「劣っていた所」「留意する所」について記入。
- ・特筆すべき事項が無ければ『特になし』と記入。

注) 活用効果調査表の入力内容(比較評価)を端的に表現した内容で良いです。👉Point

注) 当該情報は『技術のスパイラルアップ』に寄与するものになるため、出来る限りの入力をお願いします。

👉Point

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【総合的所見等②】

当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか

☐適切であった ☐適切でなかった

適切でなかった場合、どんな従来技術と比較したらよいか、従来技術名を記入して下さい 全角127文字以内。

『当該現場ではNETIS掲載情報の「比較する従来技術」は適切でしたか』

- ・NETISに掲載されている従来技術について「活用効果調査を実施する(した)現場における適正の有無」や「比較評価の可否」を評価したときに、
⇒比較技術として適切であれば「適切であった」をチェック。
⇒比較技術として適切ではないと判断されれば「適切でなかった」をチェックし、当該現場において適正であると判断された技術をコメント欄に必ず記入。
注)『一般的に活用されている技術』や『積算基準等の資料に掲載されている技術』などが従来技術に該当すると思われます。👉Point

今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか

☐今後もし是非活用したい ☐活用を検討したい ☐場合によっては活用することもある ☐技術の改良を強く望む

理由 全角127文字以内。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

『今後、当該技術を活用できる工事の場合に活用しますか』

- ・今後の活用の可能性について該当する項目をチェック。
注) 活用効果評価結果(事後評価)に直接関連する事項のため必ずチェックしてください。👉Point
- ・上記項目を選択した理由(今後の活用に対するコメント)をコメント欄に記入。
注) 当該情報は『技術のスパイラルアップ』に寄与するものになるため入力をお願いします。👉Point

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(発注者、施工者用)【総合的所見等③】

当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入して下さい 全角1000文字以内。

誤字チェック 凡例: チェック対象文字, 修正候補

誤字・脱字チェックの結果をここに表示します

『当該技術について改良点・要望・その他ご意見ありましたら自由に記入してください』

- ・当該技術について改良点・要望・その他ご意見があれば、その内容をコメント欄に記入。
- ・特筆すべき事項が無ければ『特になし』と記入。

注) 当該情報は、新技術申請者が『技術改良のヒント』を得る可能のある情報になります。👉Point

「活用効果調査表(施工者用)」入力時の留意点

■活用効果調査表(施工者用)【施工状況等の写真】

施工状況等の写真 ※写真ファイルには、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式の画像ファイルを指定してください。

写真1

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルが選択されていません。

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真2

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルが選択されていません。

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

写真3

ファイルをドラッグ&ドロップしてください。または

ファイルが選択されていません。

登録済み写真名:

※画像サイズは2MBまでのものとしてください。

『施工状況等の写真』

- ・「施工状況等の写真」は必ず登録し、写真タイトルも必ず記入。
- ・「参照」から画像データを選択して登録。

注) 施工状況の写真には適切な事後評価に必要な情報が含まれていることがあります。👉Point

注) 画像ファイルは、サイズ300×200程度のGIF形式またはJPEG形式で画像サイズ2MB以下